

暗号は解読された
般若心経

【要約】 Ver. **X I**

岩根^{わろ}和^う郎 著

<http://www.angoukaidoku.com>

・ ・ 最後にお知らせがあります ・ ・

【第一節】

仏説摩訶般若波羅蜜多心經

仏陀が説いた 般若波羅蜜多の教え

以下の般若心經の解説は、
著者による空の体験を重ね合わせて読み
解き、現代用語で著した書の、要約であ
る。

【第二節】

觀自在菩薩、行深般若波羅蜜

多時、照見、五蘊皆空、度一切苦厄

観音様は、般若波羅密多の深い瞑想をされたときに、宇宙の根元には《宇宙の理念》が厳然と存在していて、人間が生きる現象と事象の「世界」は《宇宙の理念が表現された状態》であり、一切が肯定されている、と見定められた。

観音様は、この宇宙の姿を皆空と呼称し、この見定めに基づいて、衆生救済の方法を、以下のように示されたのである。

仏陀入滅後、仏教の混乱の中から、仏教の再生を目的として興った大乘仏教は、仏陀の悟りを継承する人達により、空を中心とする思想体系を構築した。

しかしながら、その真実はあまりにも革命的な内容であったために、一旦これを呪文として暗号化し、未来においてこれを解読することで、大乘仏教を蘇らせ、正にこの現代に、仏教の再生を託したのである。

更に、仏教としての継続性を確保しなければならない必要性から、新しく導入した概念に対して、敢えて、新語句を遣わず、初期仏教で遣われた語句を再定義し、同時にそのことで暗号化したものである。

即ち、**空・色・受想行識・諸法**を、新しい宇宙観を示す新しい概念を持つ語句として、再定義したのである。そしてこの語句こそが暗号を解読する「カギ」となっているのである。

ここで、**空**とは定義し難い、究極の存在であり、それは宇宙の根元に有り、《宇宙の理念》

であり、完全な存在であり、超実体である。
そしてそれは修行によって、「心を空しくした
時」にのみ、それを体験できることから、直接
的に名付けることを避け、「そこに至る手段」
と「その時の心の状態」をもって呼称すること
とし、それを「**空**」と名付けたのである。

般若心経とは、仏陀が主導する般若波羅密多
の瞑想中に、観音様が舎利子の質問に応えると
いう舞台設定で、説かれたものである。

先ず、般若波羅密多の真言を、暗号が解読さ
れた結果の形で以下に示す。

【第三節】

舎利子、色不異空、空不異色、
色即是空、空即是色、受想行

識、亦復如是

舍利子よ

人間の本質は生命活動の司令塔としての色と現場対応の役割としての受想行識の二つの部分からなり、一方空は真の实在であり、存在の本質である。

即ち、完全性とその永遠性、絶対性、及び普遍性の、基本三性質（※後述）において、色は空そのものであり、空は同様に色そのものである。

空から、使命と個性を持って分かれた存在が色である。色はその役割を果たすために、空から『事象』の世界にまで降りてきて、受想行識を支え、生命活動を

営む。

受想行識は色が自らを分けて生み出した生命体であり、色の主導の下に、色と共に肉体を一時の住処とし、『現象世界』で生きる存在であり、現実世界で生命活動を展開する役割を持ち、色と対になっている、人間のもう一方の本質である。

受想行識は色とまったく同様に、『超実体』の空そのものであり、いつでも空に帰還し、再び空から『現象』の世界に戻って活動することが出来る。

人間とは、色と受想行識の共同作業で、空から地上に降りてきて、空の中から《宇宙の理念》を展開している存在である。

これが宇宙の生命活動である。

従って、色と受想行識は、しばしば空に帰還し、再び、色と受想行識に戻ることで、常に空の絶対性と、空の普遍性を、同時に、矛盾無く、合わせ持ちながら、生命活動を展開することが出来るという真実が、ここに示された。これが現代において、特に重要な意味を持つことになる。

続いて、観音様は人間の生きる、物心両面の環境について説く。

【第四節】

舍利子、是諸法空相、不生不滅、不垢不淨、不增不減

舍利子よ

諸法は空が自らを具体化することで形式的に表現し、空の性質を持つ空相に所属するものである。

即ち、諸法とは、空相という「環境の根元」に所属し、生命活動の基本となる複数の法の集合である。

ここで諸法とは「生命活動の場」の集合である。現代宇宙論との対応を見れば、諸法の中の一つの法の中に、独自の宇宙を形成している。その法の中に精神が営む『事象』と、物質が生み出す『現象』が織りなす世界を創造し、そこを「生命活動の場」としている。法は自ら生成し

た『事象』と『現象』を管理している。

現代宇宙論と対応させれば、ビッグバン宇宙はこの一つの法の中で発生したと考えられ、複数形の諸法であるから、空相の中には法の数だけのビッグバン宇宙が生まれていることになる。

人間はこの諸法の中の一つの法による一つのビッグバン宇宙に所属し、物心両面において、この環境に一切を支えられ、守られて生きているのである。

私たちの所属する法は諸法の一部であり、諸法は空相に所属し、空相は空を具現化したものであるから、法は空の性質を受け継いでいる。

そこで、空は究極の存在であり、直接説明することは困難であるから、法を生

み出した**空相**の持つ基本三性質を通して、その根元の**空**を間接的に説明することにする。

その基本三性質の一つ目は「不生不滅」である。生と滅を超越し、時間を超越し、完全なる存在の表現として永遠に存在し続けている。

次に、二つ目は「不垢不淨」である。善と悪の対立から成る二元論を超越し、及び相対価値を超越した絶対価値を表現していて、一元論的に、人間による生命活動の精神性を支えている。

次に、**空**の基本三性質の三つ目は「不増不減」である。変化変容する諸行無常

の世界、即ち、自ら創造した『事象』と『現象』を超越して存在している。

ちなみに、現代宇宙論的に言えば、時間・空間・エネルギーとは諸法の中の、私達の住む一つの法に所属するビッグバン宇宙の次元要素で有り、一つの法に固有の存在である。私たちの知る物理法則はこの法の中でのみ有効であり、他の法では別の物理法則が成立するのである。つまり、私たちが直接認識できるのは私たちが所属する一つの法の中の、ほんの一角である。

ここで、サンスクリット語の原典に遡れば、諸法の持つ三つ目の属性はより明確になる。それは即ち「不欠不満」である。

諸法とは空自身を多層的に、多面的に、多層的に表現した空相であり、複数の法から成っている。

さらに諸法とは、空自身の性質の投影として、空相の中に多様性をもって表現される。

即ち、空の性質を示す基本三性質の三つ目としては「不欠不満」である。

空相の中に複数の法、即ち諸法が多様性をもって表現されていて、それでいて、空相の性質として、決してそこに欠損があるわけではなく、しかし空相の中に諸法が完全に満たされることはなく、それ

でいて空相の性質の普遍性が完璧に確保されているのだ。これは現代の表現では「多様性の中に普遍性が保たれること」を意味していることになる。

ここまでが、「宇宙と人間と、人間の生きる環境との関係」を示した、般若心経の核となる部分である。

【第五節】

是故空中、無色無受想行識、
無眼耳鼻舌身意、無色声香味
触法、無眼界、乃至無意識界

それ故に、空と空相から成る空中には、
「初期仏教が説くような、人間と世界」
は存在しない。

真実としての空と空相から成る空中に
は、初期仏教が説く旧語句、即ち[色・受
想行識・眼耳鼻舌身意・色声香味触法・
眼界から意識界まで]無い。

即ち、初期仏教が説く人間の肉体・肉
体に付随する精神性は空中には存在しな
い。さらに人間の五感の知覚・認識、及
び五感による認識の対象となる世界は真
実の世界では無いから、空中という真実
の世界の中には存在していない。

即ち、私たちが五感を通して認識する世界は真実のものでは無く、錯覚である。その錯覚の外側に真実の世界である空中、即ち空と空相が存在する。

ここには、色・受想行識・諸法が旧語句の意味では無く、再定義された語句であることを、語句の配列の中に論理的に示されていて、これが再定義の決定的な証拠となっている。(※文末を参照のこと)。

【第六節】

無無明、亦無無明尽、乃至無
老死、亦無老死尽、無苦集滅
道、無智亦無得

空と空相は初期仏教で説かれた世界の中には存在せず、全く新しい概念の宇宙である。

新しい宇宙観であるが故に、初期仏教の十二縁起、四諦等の旧経典を完全否定する。これら初期仏教で遣われた人間と世界を分析した旧語句と旧経典は、全て否定されるべきものであり、悟りには全く必要がない。

ここまでが、観音様が舍利子に示した、般若波羅密多が意味するところの真言である。

【第七節】

以無所得故、
菩提薩埵、依般若波羅蜜多故、
心無罣礙、無罣礙故、無有恐怖、
遠離一切顛倒夢想、究竟涅槃、
三世諸仏、依般若波羅蜜多故、
得阿耨多羅三藐三菩提

続いて、「ここで否定された旧語句と旧經典には、悟りにとって、何ら得る所は無い」という理由で、以下に「悟りの方法論」を説く。

地上に生きる修行者は、これら旧語句と旧經典を破棄して、般若波羅蜜多に帰依したが

故に、心に障りが無くなり、障りが無くなったが故に、恐怖が無くなった。

そしてさらに、世にはびこる「実体が無い空」とする、天地がひっくり返った、根本的に間違った認識の一切を捨てることで、はじめて涅槃という悟りに達することができたのである。

そして、天上の修行者、即ち、過去現在未来を同時に生きる三世諸仏は、般若波羅密多に帰依したが故に、阿耨多羅三藐三菩提という、完全なる悟りを得ることができたのである。

ここで、しばしば登場する、般若波羅密多とは、絶対普遍の価値体系に共鳴し、宇宙のフラクタル構造を縦に貫く変換自在なベクトルである。人間は修行によっ

てフラクタル共鳴に至り、次元を超えて、
宇宙の中を縦横に展開できるのである。

【第八節】

故知般若波羅蜜多、是大神呪、
是大明呪、是無上呪、是無等
等呪、能除一切苦

故に、ここに示した般若波羅密多の真言は、
大きな靈力のある呪文であると知るべし。
偉大な明知の呪文であると知るべし。
この上ない呪文であると知るべし。
比類の無い、呪文であると知るべし。
そしてこれは、能く一切の苦を除く力を持
っているのである。

編纂の段階で、般若波羅密多の真言を、暗号化したために、表向き、意味不明となってしまうが、未来となるこの現代に、まさに予定通りに暗号は解読されたのである。

そこで・・・。

【第九節】

真実不虛故、説般若波羅蜜多
呪、即説呪曰
羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦
菩提薩婆訶
般若心經

いずれ解読されるであろう、この般若波羅密多の呪文は真実である。

この真言は、確かに、暫くは意味不明であるが、決して虚偽ではないのだから、この真言の結論を、意味が分かるように要約し、以下に「般若波羅密多呪」として、示しておく。

即ちここに、その要約の呪文を説いて曰く。

展開せよ、展開せよ、**空**の中から展開せよ。
空の中から、《宇宙の理念》を展開せよ。
悟りを得た者達よ。

ここに述べた観音様の知見を、般若波羅密多そのもので在られる仏陀が、これはご自身の悟りによる見解と完全に合致すると語られ、これを承認したのである。

これが、仏陀入滅後に混乱した仏教の再生を願い、新たに興した大乘仏教の真髄を纏めた、般若心経である。

以上

以下に、般若心経における、色・受想行識・諸法が、
般若心経編纂時に、新たに再定義された語句である事を証明する。

色は空である。

空は色である。

従って、色は空と恒等的に等しい。

・・・①。本文の結論。

諸法は空相である。

諸法であるためには空相であることが必要条件である。

・・・②。本文の結論。

一方、是故空中、無色・・・から。

色は空中に含まれない。

・・・③。・・・本文の結論。

ここで空中とは、空と空相から成る。

・・・④。本文の帰結。

①、②、③、④より、
色は空中に含まれる。と同時に、
色は空中に含まれない。が成立する。

従って解は、色は色と恒等的に異なる。となる。

従って、ここで色は「初期仏教の語句」であるから、
色は「再定義された語句」でなければならない。

受想行識、亦復如是。
即ち、色は受想行識と同じである。
従って、ここで受想行識は「初期仏教の語句」であるから、
受想行識は「再定義された語句」でなければならない。

次に、諸法については、
同様に、空中は空と空相からなる。

．．．④から。

諸法は空中に含まれる。

一方、是故空中．．．無．．法、であるから、

法は空中に含まれない。

．．．⑤。．．本文の結論。

②と⑤から。

諸法は空中に含まれる。と同時に

法は空中に含まれない。が成立する。

従って解は、法と諸法は恒等的に異なる。となる。

従って、ここで法は「初期仏教の語句」であるから、

諸法は「再定義された語句」でなければならない。

以上で、色・受想行識・諸法は再定義された語句であることを証明した。

を証明した。

結び

ここで、色と受想行識は、いわゆる絶対者と自分の関係を示している。それは即ち、世界の多くの宗教に於ける、守護の神霊と自分とは、決して分離できない関係であることを意味している。これに関しては、共通理解が持ちやすい内容である。

次に色と受想行識は、使命を持って空から生まれた空自身であることと、諸法は、その生命活動を支える物心両面の「環境」を創り出し、それを管理する側である。これも、空を理解すれば、無理なく理解ができる内容である。

各地域に分散した、人類の歴史の中で、それぞれの地域で文化を育て、歴史を積み重ねてきたが、いまや狭くなった地球上で、必然的に複数の文化が、深く関わり合うことになった。

その結果、現代社会は、幾つもの宗教や民族が自らの絶対性のみを主張し、他を排除することで独善となり、神の

名の下に、決して解決することのない、対立の構図を作っている。

そこで、今ここに、般若心経によって絶対性と普遍性を矛盾無く両立させる**空**が説かれたことは、人類の恒久平和実現にとって、極めて重要な意味を持つことになる。

そこで、以下のような最重要メッセージとなる。

これからの人類としての、**色**と**受想行識**は、各自が絶対性を保持したまま、独善を排除し、普遍性を追求する修行によってフラクタル共鳴に達しなければならない。

そうすれば、全ての人間、即ち全ての**色**と**受想行識**が**空**に帰還することが出来ることになる。

その時、フラクタル共鳴に達した、全ての**色**と**受想行識**は、絶対普遍の価値体系の下に、完全統一されることになる。

その時**諸法**は、絶対普遍の価値体系の下に、表現の多様性を基本として、普遍性の原理の中に**色**と**受想行識**を支える。そしてさらに**諸法**は、個々の**色**と**受想行識**の絶対性を

守り、独善を排除し、個々の人間の個性を守り、使命を尊重し、しかし決して平等ではなく、常に個々の使命の達成に必要な運命を支えることで、人類の生命活動を支え続けるのである。

これが、人類の求め続けた最終的な世界の恒久平和の姿である。

そしてこの真実を伝えることが、般若心経が現代に蘇った最大の理由である。

要約 おわり

続いて お知らせ

暗号は解読された般若心経 URL

<http://www.angoukaidoku.com/seminar.html>

献文舎URLが開設されました。

般若波羅密多研究会のご案内

内容「暗号は解読された般若心経」の読者対象

2000年もの長い間隠されていた般若心経の暗号が解読された今、誰もが身近に般若波羅密多を学び、ここから現代へのメッセージを読み解くことができます。参加者同士での学び合い、相互交流、相互啓発、の場作りを目指していきます。

ご興味のある方は下記連絡先までメールをいただければ、担当より詳細をお知らせします。

開催 月1回の会合(不定期) 都内公共会議室にて
13:30~17:00 月会費1000円

連絡先 一般社団法人 じねんネットワーク事務局
E-mail: jimukyoku-network@gcic.sakura.ne.jp

- 。 「暗号は解読された般若心経(献文舎) サイト」 問合せ

般若心経の解説は進化し続けます。

進化に応じて、概要はしばしば更新されます。